

# 令和3年度 古津八幡山遺跡発掘調査現地説明会資料

## ①古津八幡山遺跡の概要

標高約50mの丘陵上にある弥生時代後期（約2000年前）の大規模な高地性環濠集落で、古墳時代中期（約1600年前）には県内最大の古津八幡山古墳が築かれます。弥生時代から古墳時代にかけての変遷や、北陸や東北との地域間関係など、当時の日本列島の社会情勢を考える上で核となる重要な遺跡であることから、2005（平成17）年に国史跡に指定されました。

弥生時代の環濠に囲まれる範囲は南北400m、東西150mほどです。これまでの発掘調査で竪穴住居62棟、方形周溝墓4基、前方後方形周溝墓1基などが確認されています。環濠は幅・深さとも約2mで、V字形の形状です。この時期、中国の歴史書の中に「倭国乱」の記述があることなどから戦いに備えたムラと考えられています。

古墳時代になると丘陵上の集落は廃絶しますが、直径60mと県内最大の円墳で、越後平野の広い範囲を治めた豪族の墓と推測される古津八幡山古墳がつくられます。



古津八幡山遺跡全景（北東から）

## ②古津八幡山遺跡の整備概要

2004（平成16）年より整備事業を始め、主要なエリアの整備が終わった2015（平成27）年から古津八幡山遺跡歴史の広場として供用を開始しています。

これまでに竪穴住居7棟や環濠、方形周溝墓2基、前方後方形周溝墓1基、古津八幡山古墳などの復元整備をし、麓にはガイダンス施設である弥生の丘展示館があります。

## ③今年度のおもな発掘調査成果

史跡をより適切に保存・活用していくため、史跡外における遺跡の状況把握を目的として、2017（平成29）年から標高約25mの遺跡北東域の丘陵中腹域、史跡指定地外において発掘調査を実施しています。昨年までの調査で弥生時代の大型竪穴建物などが見つかっています。今年度は尾根のさらに北側について発掘調査を行っており、弥生時代の竪穴住居や方形周溝墓などが見つかっています。

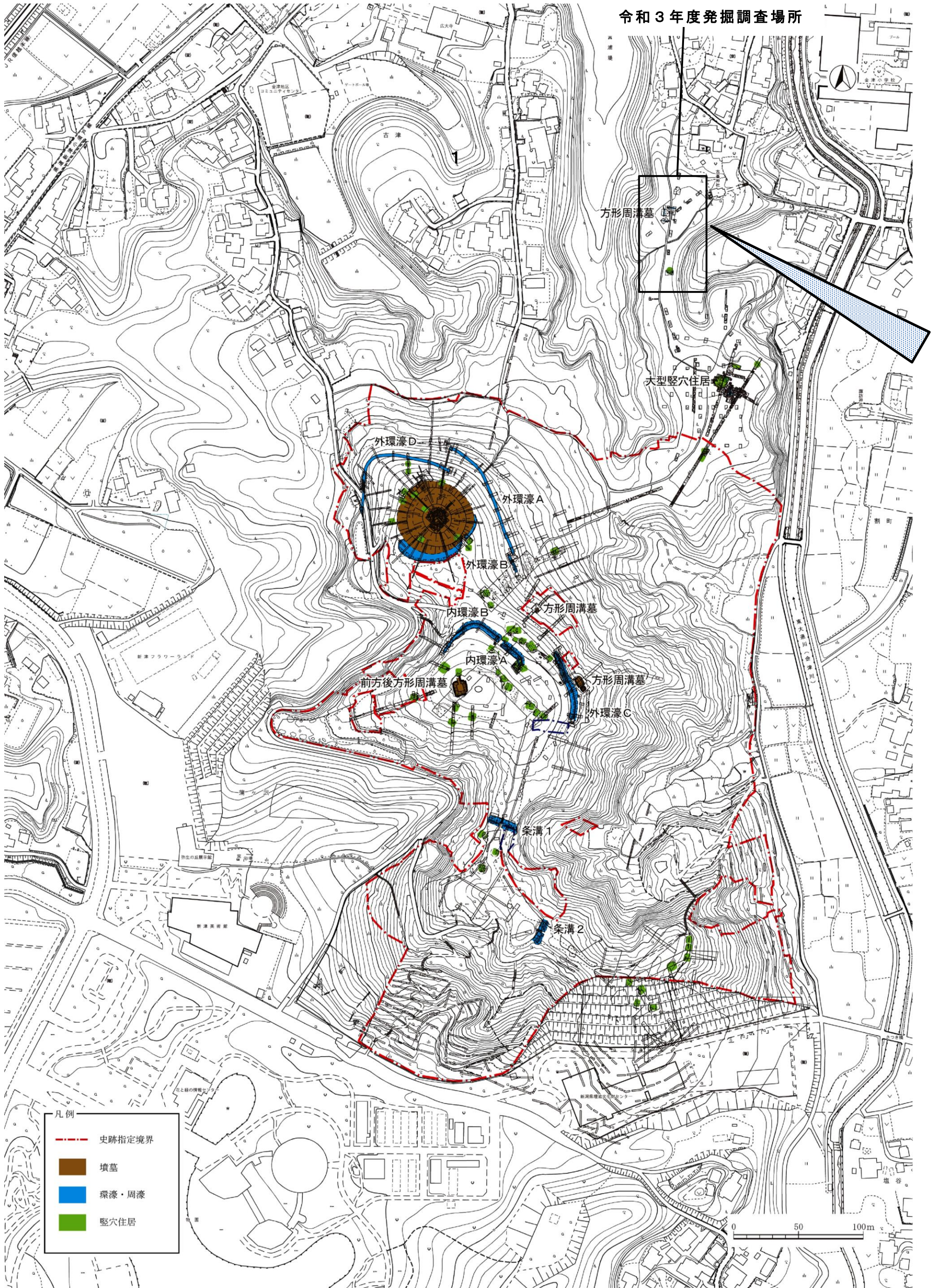
**竪穴住居** 竪穴住居が1基発見されました。調査区内の竪穴住居の南側について調査を行っています。東側が削平されていますが、平面形は隅丸方形で、規模は一辺約5mと推定されます。竪穴住居の壁際には溝（壁溝）が巡ります。壁溝は2条確認されており、1度建て替えが行われたと考えられます。

住居の上屋を支えるための柱は1本確認されていますが、その配置から4本の柱で上屋を支えていたと考えられます。なお、煮炊きを行うための炉はこれまでのところ確認されていません。出土遺物は弥



竪穴住居（南から）





古津八幡山遺跡遺構全体図





令和3年度発掘調査場所の平面図

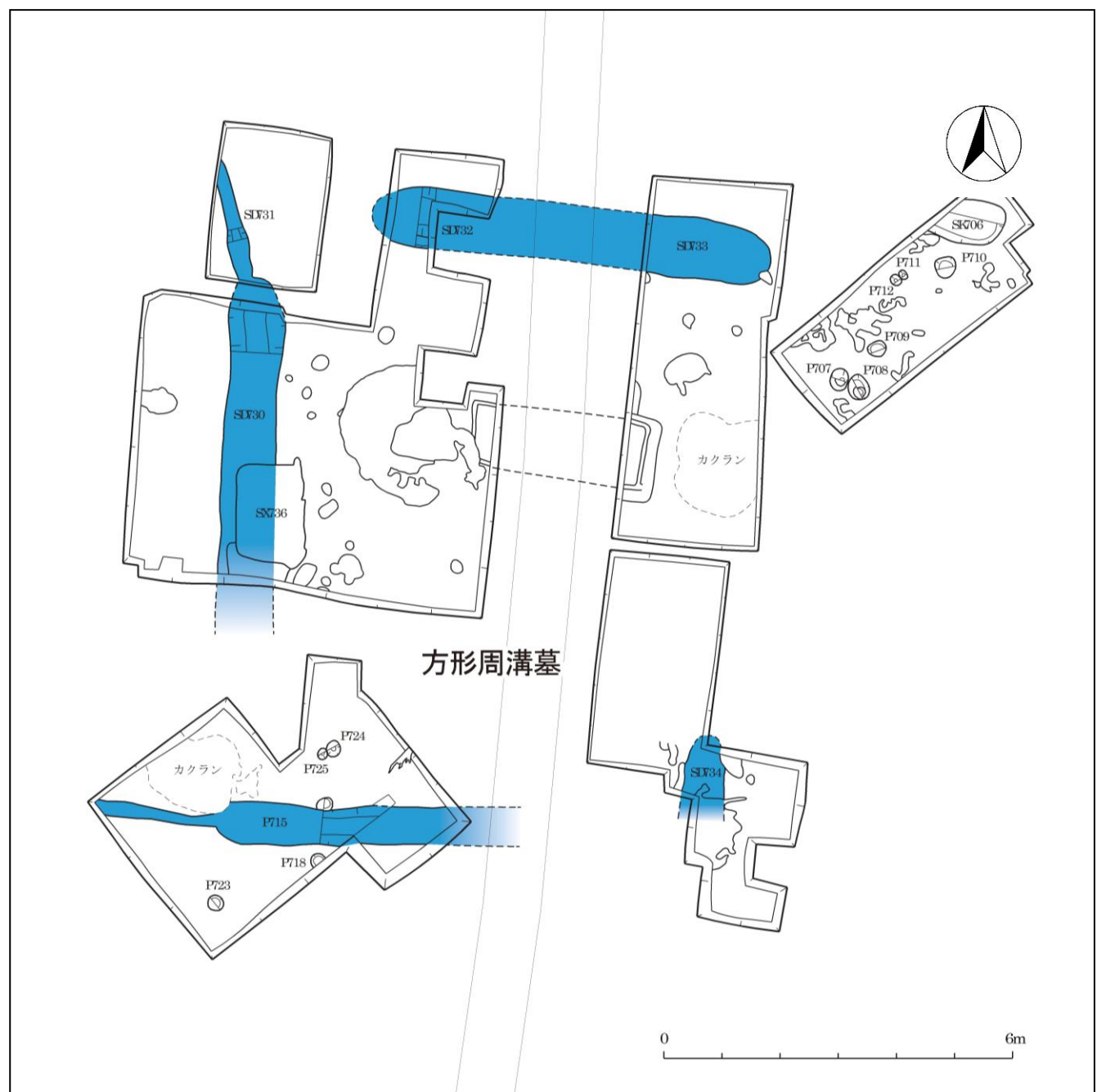
生土器のほか、鉄製の<sup>やじり</sup>鍬が出土しています。出土土器などから弥生時代後期（約 1900 年前）の竪穴住居の可能性がありますが、古津八幡山遺跡において丘陵中腹域で弥生時代後期の竪穴住居が発見されとなると初めてのことで、弥生時代後期に丘陵頂上部だけではなく、丘陵中腹域でも何らかの活動をしていた可能性が出てきました。

**方形周溝墓** 古津八幡山遺跡では、弥生時代のお墓としてこれまでに方形周溝墓 3 基、前方後方形周溝墓 1 基が確認されていましたが、今回の調査で新たに方形周溝墓が 1 基発見されました。古津八幡山遺跡において、丘陵中腹域でお墓が発見されたのは初めてのことです。

今回発見された方形周溝墓は 4 辺に幅 0.6～1.0m の周溝が掘られており、西側と北側の周溝ではさらに排水溝と考えられる細い溝が西側の沢へ向ってのびています。方形周溝墓の規模は周溝の内側で計測して長軸約 10m、短軸約 7m、平面形は長方形になるようです。古津八幡山遺跡における方形周溝墓としては最大です。

方形周溝墓の上部は後世に削平を受けているため本来の高さは不明ですが、周溝を掘って出た土を周溝内に盛ってお墓を高くしていたと考えられます。周溝内部からは東西方向に軸をもつ木棺 1 基の痕跡が確認されました。木棺自体は腐って残っていませんでしたが、木棺の板のあった部分の土が異なっているため木棺の大きさや構造が推定できます。木棺の大きさは幅約 1m、長さ約 3m で、両長側板に小口板を挟んだ組み合わせ式の木棺であったと推測されます。なお、木棺の上部は後世に削平を受けているため、棺の高さなどは不明です。

方形周溝墓の時期については弥生時代後期もしくは弥生時代の終わり頃（約 1800 年前）と考えられますが、より詳細な時期について今後検討していく予定です。



方形周溝墓平面図

#### ④おわりに

弥生時代に丘陵中腹域でも墓がつくられていたことが新たに判明したことで、古津八幡山遺跡の動向や当時の社会情勢について改めて考える必要が生じてきました。

今回発見された方形周溝墓は、古津八幡山遺跡の丘陵上にあるほかの弥生時代後期の方形周溝墓 3 基（3.1m×2.8m・6.3m×4.7m・不明）よりも規模が大きく、方形周溝墓としては県内最大級の大きさです。

今後、方形周溝墓の細かい築造年代も含めて、方形周溝墓内にほかに埋葬施設がないのかなど、今後の調査でさらに検討していく必要があります。また、この墓がつくられた背景や、周辺にほかに墓がないのかなども今後の検討課題です。